

四谷の

千枚田だより



第 105 号



うしのきんたま

お助け隊は六月二日に向け、企画・準備に情熱をまやしている。二十日には経費節減を視野に手弁当で準備作業を行う。

永田副知事視察

永田副知事さんは、この四月から発足した「東三河県庁」の専従副知事であり、東三河の発展の要である。



五月七日、副知事さんは四谷の千枚田を訪れ、ふれあい広場から見下ろす千枚の水鏡をみて「素晴らしい、これぞ、日本の原風景だ。この棚田を守り継ぐ農家の方々のご尽力に頭が下がる思いだ。」と絶賛された。

案内役の(舜)は田んぼから長靴を履いたままの恰好で失礼かと心を痛め、お待ちしていたが永田副知事さんも長靴履きでした。今まで数多くの「おえらいさん」の対応をさせて頂いたが長靴履きの姿に同じ目線でお話ができ、うれしかった。ふれあい広場は旧水産試験場であり、(舜)が携わったホウライマス、イワナ、アマゴ等々の繁殖確立また、降海性アマゴ(サツキマス)の生態などと、話が弾んだ。(次ページへ)

『お田植え感謝の夕べ』

みんな灯ろう 千枚田

日時 平成24年6月2日(土) 午後7時から

連谷お助け隊

協力：愛知県ふるさと指導員

本日、訪れた目的の一つは穂積市長が連谷会館で行われた新年祝賀会の挨拶で小水力発電の話がされたことを「四谷の千枚田日より第一〇一号に掲載したところ愛知県も「田園自然再生コンクール大臣賞受賞」、「COP10 エクスカーション会場」等々で貢献した千枚田には非、小水力発電機第一号をと「千枚田だより」に赤ペン(主要課題)をいれ、県農林水産部全体で準備(調査段階)に取りかかっていただいております。その現地視察が主目的であった。長靴姿の永田副知事さんの姿勢から、棚田を守る我々に対し、早いうちに大きなお土産を頂ける確かな予感がありました。

### 田植え

・五月十日、豊橋調理製菓専門学校(参加者六十名)の田植えが行われた。当日は千枚田入り口から「ふれあい広場」まで小山舜二の案内で先人の築いた棚田の歴史、生物多様性、伝承文化、地殻変動、戦国歴史等々を学びながら高低差二百メートルのふれあい広場まで上り昼食。午後は実習田で田植えを行った。なお、同校は田の草取り、稲刈り、脱穀までシリーズで行い、棚田のお母さんたちから地域料理の実習も併せて行う。



**お知らせ**  
5月27日、8時30分より「灯そう千枚田」を視野にふれあい広場、治道等の草刈り作業を実施します。

・五月十二日、JA愛知東農協主催の「こども農学校」(参加者六十五名)の田植えが高橋庄一(顧問)の指導で行われた。

・五月十二日、地元新城高校「農業クラブ」(三十五名)の田植えが原田英史・小山舜二(ふるさと指導員)の指導で行われた。

・五月十三日、「棚田の楽耕」のリーダーによる田植えが行われた。

この、楽生達は都会の喧嘩から千枚田を一服の良薬として田の草とり、稲刈りまで毎年訪れている。(本音は(舞)と飲むことを楽しみにしているようだ。)

・五月十六日、連谷小学校の田植え



## 平成24年度 鞍掛山麓千枚田保存会総会

5月12日、保存会総会が開かれ、上程された議案はすべてシャンシャンと可決した。

【基本方針】 全国的にも注目を集めている「四谷の千枚田」を保存、保全活動としての各種事業、行事を引き続き実施し、農業振興と地域の活性化に向けての一助とすべく、下記事業計画を基本方針とする。

### 【具体的事業】

- ①鞍掛山麓千枚田保存会総会の開催
  - ②第18回全国棚田(千枚田)サミット参加
  - ③環境整備事業の推進
  - ④保全に関する啓発活動・情報活動の実施
  - ⑤国・県・市等関係機関との連絡調整
  - ⑥その他、保存活動に必要な事項の調査活動の実施
- 「特別事業」 あいち森と緑づくり事業の実施(地域環境整備) 小水力発電施設設置に向けての調査

各種企業等関連行事への協力及び受け入れ体制の整備

### 【保存会体制】

会長 小山舜二 副会長 高橋孝行 会計(事務局) 松下誠  
 理事 小山廣一 高橋伸治 今泉雅男 村雲伸一 林 義明 原田英史  
 顧問 高橋庄一 小山泰弘  
 会員 丸山俊明 金古浩一 古田和男 稲熊富平 松下正男  
 原田武典 丸山一虎 丸地光世 夏目宏一 梶村兼夫 小山秀夫  
 小山傳治郎 原田勇 川西 忍 小山柳二 今泉 徹 稲熊良隆

ゴム新城工場の植樹祭に参加する。  
**補修作業と謝礼**  
 四月十七日、簡易トイレ横の崩落箇所を原田武典(ユニポ提供)、今泉雅男、小山泰弘、小山舜二で行った。

### 近々の催し

・五月二十六日、保存会は方瀬組住民と集落周辺の環境整備を「あいち森と緑づくり事業」の助成を受け実施する。

・五月二十六日、保存会有志で横浜

行 平成二十四年五月十五日  
 鞍掛山麓千枚田保存会  
 発 文 責 小山舜二